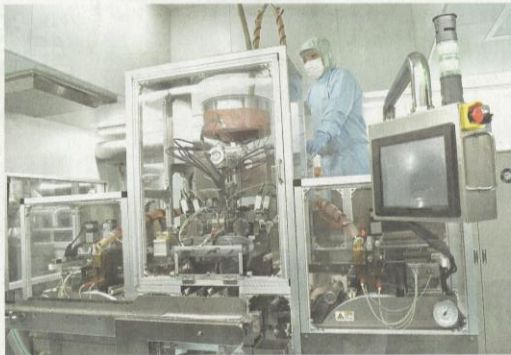


乾燥機ソフトカプセルを成形する



サプリメントなどカプセルタイプの健康食品を受託生産する中日本カプセル（本社大垣市荒尾町229の2、山中利恭社長、電話0584・93・1013）は、ソフトカプセルで13件、ハードカプセルで3件の特許を有する。その高い技術力と企画から開発、製造までの自社一貫体制により、高品質の製品を供給。現代人の健康を支えている。（西濃・春田昭雄）

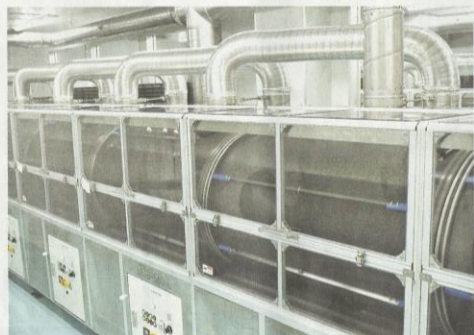
ソフトカプセルはゼラチン内用液を注入して成形する。同社は年間約億単位のソフトカプセルを生産しているが、その約8割はソフトカプセルだ。2019年に本社敷地内稼働の第3工場はソフトカプセルの新工場。鉄骨造、前建て延べ床面積約1,000平方



中日本カプセル

自動化・省力化機械を積極導入

## カプセル生産 年間12億5千球



「タンブラー」による乾燥工程

技術力で現代人の健康支える



目での検査も欠かせない

### 一貫体制・多品種少量に強み



2019年に稼働した最新鋭の第3工場

で、自動化・省力化機械を積極的に導入し、24時間稼働する。最初の工程は充填（じゅうてん）機によるカプセル成形。ゼラチンの酸液と内用液を充填機に送り、シート状に加工した2枚のゼラチンの間に内用液を注入して型抜きする。続いて「タンブラー」と呼ばれる巨大な回転式乾燥機に送り、必要が水分量になるまで乾燥させる。製成しては4時間乾燥機の中を回り続けるという。最後は検査工程。3方向カメラによる自動選球と併せ、目視より規格外品の混入をチェックする。最新鋭の機械でも限界があり、それ補いのやはり職人がいる。カプセルを年間同社ではソフトカプセルを年間約6,000品目製造する。そのほか他の原料の影響をきかない「ツールムーミン」管理を徹底。多品種少量生産における品質を確保している。第3工場での自動化・省力化への取り組みは、同じソフトカプセルを製造する第1工場にも広げる方針という。



ハードカプセルを製造する第2工場の充填機



2023年（令和5年）  
2月1日  
水曜日

### 記者の目

### 自主的な活動尊重する社風



春田昭雄 場や特許技術を紹介する動画（バーチャル工場）を制作した。

ソフトカプセルの製造では型抜き後に大量のゼラチン残りが発生する。そこでゼラチンを液体やチップ状に加工し、肥料として販売する取り組みを進める。また、第3工場などには見学コースを設けているが、コロナ禍で実施が難しくなると、若手社員がチームをつくり、製造現場や特許技術を紹介する動画（バーチャル工場）を制作した。同社を取材で訪れると、社員が伸び伸びと働いている姿を目にすることができ、社員の自主的な活動を尊重する姿勢がうかがえる。そうした社風の中から、また新しい技術や製品が生まれることに期待したい。